Ｈ２１年６月３０日

さくしん

下氷鉋小学校

（校長室だより１４）

校長　大内　徹

校長室から外を眺めていると、咲き始めた紫陽花（アジサイ）の花が目に入ってきます。プール脇には合歓（ねむ）の木がほのかに甘い香りを漂わせながら、淡いピンク色の花を咲かせています。蒸し暑い毎日が続いておりますが、六月も今日で終わりです。六月といえば梅雨。梅雨といえば紫陽花という連想がすぐに働きますが、「六月」で「虫歯予防週間」を思い出す人もいることでしょう。本校でも８日から１２日にかけて虫歯予防週間がありました。児童集会では、虫歯予防が呼びかけられ、本校児童の虫歯の状況については、未治療の歯や要治療の歯のない児童数が７０３名中１４６名という数字で示されました。６年博組の T さんは小学校入学時から今まで乳歯の虫歯もゼロ、永久歯の虫歯もゼロということで、保健委員会の副委員長さんが「どうやって虫歯を予防してきたのですか」とインタビューをしていました。私は、虫歯予防デーに生まれたにもかかわらず虫歯が多くて、歯医者さんにこの一年間ずっと通いとおしです。どちらかというと「虫歯呼ぼう」をしている私は、大変興味をもって T さんの話に耳を傾けました。T さん曰く。小さい頃はお母さんがしっかりと仕上げ磨きをしてくれたということ、自分でも丁寧に磨いてきたということ、また好き嫌いなく食べているということでした。「歯みがきをしなさい」と声をかけるくらいのことは、どのご家庭でもおやりのことなのでしょうが、虫歯ゼロを常に続けているということはすごいことだなと大変感心いたしました。本人の心がけもあるのでしょうが、そのような良き習慣を身につけさせて下さったお母さんも立派だなと思いました。歯は食べたものをかみ砕くためのものばかりでなく、言葉を発する際にも必要で大切なものです。子ども達ばかりでなく大人の私たち自身もケアーをしっかりしていかねばならぬと感じました。また、忙しい時には一つしかない口を通して、かけ込んで食べたりしっかりかまずに飲み込んでしまったりしてしまいがちな私ですが、せめて、二つある耳や目を通して入ってくる情報に対しては、心の歯でしっかりとかみくだき、よく考えて物事の本質を理解して真価を味わうことができるように努めていきたいものだと考えるのであります。

さて、「早起きは三文の徳」ということで朝の５時起きで、学校に来るのも早い私ですが、朝の６時半ころ学校に着くと、校庭でお子さんとサッカーをやっているお父さんの姿をよく見かけます。忙しい時間帯かとは思うのですが、お子さんと接する時間を少しでも確保しようとしているお父さんの姿かな…、お子さんを少しでも上手にさせようとしているお父さんの姿かな…と思いながら、親子の絆を感じさせるその光景を見ておりました。朝ご飯の前なのか後なのかは分かりませんでしたが、「そんなこと朝飯前だよ」なんて簡単には言えないことで、私自身やってこれなかったことでした。四人の子どもがいた私ですが、子どもが大きくなってしまった今では遅すぎる感が致します。

土曜日や日曜日、学校に仕事で来ますと、校庭や体育館で、野球、バレーボール、剣道など、小学生の子ども達が盛んに練習を重ねています。他の場所ではサッカーや空手なども行われているようです。付き添いのお父さんやお母さん方もお忙しいことでありましょう。貴重な時間を子ども達と過ごしているのだろうなあと感じつつ、忙しい中を時間をさいてご苦労されている方々には、大変お疲れ様でありますが、今後とも怪我のないよう、子どもの体調に心配りをしながら

活動させていただければと願っております。

１４日には広徳ジュニア男子バレーボールチームの試合（北信地区大会）が東和田運動公園の体育館で行われ、私も家がすぐ近くなので様子を見てきました。さすが、さすが、なかなかの活躍ぶりで３位という成績で来月４日の県大会に出場とのことです。また、２１日の日曜日には南長野運動公園で、NBS の相撲大会があり、本校からは４０人を超えるお子さんが出場し、みんな全力の取り組みでした。３年生は惜敗して入賞はできませんでしたが、大会当日まで３年生が１，２年生の面倒をあれこれと見て指導してくれたお陰で、２年真組の K 君が優勝、美組の M 君が３位　１年省組の T 君が２位、倹組の U 君が３位と大活躍でした。長野市のわんぱく相撲にしても NBS の大会にしても、来年は団体戦の部でも出場して、下氷鉋小学校のパワーを発揮してくれるといいなあと願っております。秋の大会もあるそうですから、練習を重ねてパワーアップしておくといいですね。

このように、学校の内外で、日々様々なスポーツ活動が繰り広げられております。勝てばうれしく、負ければ悔しいスポーツです。体格・体力や運動能力・技能の良し悪し、練習の質や量も問われることもあるでしょう。しかし、競技者が公正なスポーツマンシップや礼儀・マナーを有しているか否か、そして、それが日常生活でどのように発揮されているかが一番大切なのではないかと常々感じております。子ども達の日常の姿からそれを見取っていくことができれば幸いであります。

話は変わりますが、朝、私が北校舎の階段を上がって行くと、図書館から借りてきた本を読みながら、二宮金次郎のごとく、歩いていく S 君の姿があります。図書館の中に入ってみると多くの子ども達が本を借りに来ています。大変素晴らしいことであります。４／１６～６／２５の間に、全校で１０，６３８冊の本が貸し出されています。例年一学期中に約一万冊余りの貸し出しがあるようです。一番借りている子は７０～７５冊くらいだそうです。つい最近 NHK のクローズアップ現代で、東京大学教育学部教授の佐藤 学先生が、インタビューの中で、「言語力は学力の根幹をなすものである」という旨のことを仰っておりました。全くの同感で、私たち人間は思考したり、判断したり、物事を感じたりする際には「ことば」でその行為を行っております。その「ことば」の力が不十分であると、深く考えたり、感じたり、自分の思いや考えをうまく伝えたりすることができないようです。この「ことば」の力をつける上で読書は欠かせないものでありましょう。子どもが本に興味を示し、本に触れて手にとるようになればしめたものです。絵本でも何でもいいのです。大人の感覚でお薦めのいわゆる「推薦図書」に子どもが興味を示さないから云々とこぼす方々の声を聞いたこともありますが、最初のうちはどんな本でもいいのではないでしょうか。子ども達の興味や関心の対象は心身の成長と共に変わってくるものです。また、読書は単に「ことば」の力を高めるばかりでなく、子ども達の心を豊かにして、情緒性を高めてくれるはずです。本校では読み聞かせボランティアの方々が、ご来校下さり、昔話や名作の読み聞かせをして下さっておりますが、実にありがたいことです。今日（２９日）は６学年の先生方がテレビ放送で、物語「明日も友達」の読み聞かせをして下さいました。素晴らしいお話でした。このようなお話に触れるごとに、子ども達の情緒性も刺激され、豊かに高まっていくのだろうなあと確信しました。休みの日など、テレビやゲーム機のスイッチを切って、心静かに本の世界に浸らせるのもいいですね。冒頭で挙げた歯磨きの習慣のように、「少しでも毎日読書」の習慣を定着させることができればどんなにか素晴らしいことでありましょう。

今週は２１日、２５日と二日間、祖父母の会の皆様が一年生の学級を訪れ、七夕の飾りづくりのお手伝いをして下さいました。ねがいごとは七日に短冊に書き込んでつけるようでありますが、どのような思いを短冊にこめるのでしょうか。今から楽しみであります。